

## 28-6 マルクス・エンゲルスのスミスにたいする誤解(?)等について

〈第二部 第三編 第20章 単純再生産 第四節 必要生活手段と奢侈手段について〉

①スミスは商品の価値を $V+m$ とは言っていない(『資本論』第2巻 大月版③P454-455)

マルクス・エンゲルスは、スミスの説は「結局、商品価値は  $V + m$ すなわち前貸可変資本・プラス・剰余価値に等しいということに帰着させることができる」と述べているが、引用文でも、「労働者が材料につけ加える価値は……二つの部分に分かれ、その一方は彼らの労賃を支払い、他方は、彼らの雇い主が材料や賃金として前貸した全資本にたいする雇い主の利潤を支払う」と述べ、「労働者が材料につけ加える価値」として  $V + m$ を加えています。そして、引用文の続きでも「各国の土地と労働との年間生産物の全体は……おのずから二つの部分に分かれる。そのうちの一方の、しかもしばしば最大の、部分は、まず第一に、資本を補填し、資本から取り去られた生活手段や原料や完成生産物を更新すべきものである。他方の部分は、この資本の所有者にとって彼の資本利潤として、またはだれか他の人にとって彼の土地所有の地代として、収入となるべきものである」とスミスは述べ、「一方の部分」が $C + V$ で、「他方の部分」が $m$ であることを言っています。

②部門Ⅰ(生産手段生産部門)の $v$ と $m$ の部門Ⅱ(消費手段生産部門)との交換についての記述について (『資本論』第2巻 大月版『資本論』③P500-504)

P500B1の「したがって、」からP501F5までの計算式は誤りではないかと思う。そして、P502B6以降のアダム・スミス批判も理解できない。「実現」と「分解」の表現の違いはあるが、言わんとしていることは同じではないのか?